

シンポジウム『これからの校則』の報告

2021年2月20日（土）13:30～16:30から福岡県弁護士会館2階大ホール（福岡市中央区六本松4-2-5）で福岡県弁護士会の主催で『これからの校則』についてのシンポジウムが下記の要綱で行われました。本来学校の中で困り感を持つたくさんの生徒がいる中で「校則」というものは「秩序を守る」ためのものなのか「弱者を守る」ためのものなのか。ただそのことで教育的配慮を必要とする多くの子どもたちが居づらくなっているとすればそれはそれで問題ではないか。私は「不登校」という観点から「校則」を考え直してみようと思って参加しました。今回の講演者である世田谷区立桜丘中学校前校長でもある西郷孝彦さんは「校則を廃止することにより不登校生が学校に来るようになった。」と言われますが、「不登校はそんな単純なものではない」と私は考えているのですが…。当日はマスクも含めて会場に100名、オンラインで200名ほどの参加者があり、たくさんの方が興味をもって参加されていたようです。感想や講演の詳細については後日報告させていただきます。

1 開催要領

日 時 2021年2月20日（土）13:30～16:30

場 所 ①福岡県弁護士会館2階大ホール（福岡市中央区六本松4-2-5）
②オンライン（Zoom ウェビナー）

主 催 福岡県弁護士会

参加費 無料

申 込 要（定員：①80名／②100名）

2 プログラム

○開会あいさつ 多川 一成 さん（福岡県弁護士会会長）

○基調報告「福岡市立中学校全69校の校則分析報告」

岩橋 愛佳 さん（福岡弁護士会会員）

○基調講演 西郷孝彦さん（世田谷区立桜丘中学校前校長）

○パネルディスカッション

・西郷孝彦さん（世田谷区立桜丘中学校前校長）

・木村素也さん（不登校生の保護者会「ぼちぼちの会」会長・能古中学校元校長）

・佐藤仁さん（福岡大学人文学部教育・臨床心理学科教授）

・愛さん（仮名）（高校1年生）

・コーディネーター 佐川 民 さん（福岡県弁護士会会員）

○質疑応答

○閉会あいさつ 知名 健太郎定信 さん（福岡県弁護士会、子どもの権利委員会委員長）

[問合せ] 福岡県弁護士会（TEL：092-741-6416 ※平日9:00～17:00）

福岡県弁護士会

これからの校則

2021年2月20日(土)
13時30分~16時30分

福岡県弁護士会館 2階大ホール

事前申込制
オンラインでも参加できます

- 基調講演 **西郷孝彦**さん 世田谷区立桜丘中学校 前校長
- 基調報告 **福岡市立中学校全69校の校則分析報告**

Purpose
開催にあたって

「靴下は床から15cm以上」「フック禁止」「髪を結ぶ位置は耳より下」「キーホルダーは一つまで(生徒手帳程度の大きさ)」など、中学校の校則の中には制限される理由がよくわからないものがたくさん見られます。性別によって着用する制服や髪型の制限を分けている学校もあります。

校則は、「生徒が遵守すべき学習上・生活上の規律」として定められたものですが、実際には学校生活を必要以上に制限するものになっていて、生徒たちは自由を失い、苦悶な思いを抱いています。学校では校則を守ることが重要視され、どうしてこの校則があるのかについては、これまで誰か向けられませんでした。私たちは、「どうしてこの校則があるの?」という生徒の声に正面からこたえたいと考えています。

文部科学省は、時代の進展に合わせて校則を見直す必要があると述べています。「これからの校則」はどうか、生徒、保護者、教職員、そして市民のみなさんと一緒に考えていきたいと思います。

Access
ライブ会場は六本松

福岡市中央区六本松4-2-5 ☎ 092-741-6416

APPLICATION
参加には事前申込みが必要です

- 1 弁護士会ウェブサイトへアクセスする
申込みフォームから、必要事項を送信してください。
<https://www.fben.jp/entry/kousoku2020.html>
- 2 ZoomのURLをメールで受け取る
メールは2月18日(木)に送信します。
- 3 オンラインで参加する

2 会場に参加する

Program
プログラムはこちら

- 基調報告 **福岡市立中学校全69校の校則分析報告**
情報公開で収集した福岡市立中学校全69校の校則を弁護士が分析、その結果を報告します。
- 基調講演 **西郷孝彦**さん
世田谷区立桜丘中学校の校長として校則を文部・全国に渡った経験や自身の影響、これからの学校教育のあり方についてお話を聞きます。
- パネルディスカッション
基調報告、基調講演を受けて、学校教育にかかわるパネリストが「これからの校則」を議論します。



「合理的でない校則 考える力を奪う」
県弁護士会がシンポ
の校則について考えるシン
ポジウム「これからの校則」
を福岡市で開いたII写真。

東京都世田谷区の区立桜丘中の元校長で、校則をなくした西郷孝彦さんが講演。「合理的な理由のない校則を押し付けると、子どもの考える力を奪う」と訴えた。シンポでは弁護士会が、福岡市立の中学全69校について実施した校則の調査結果を報告。多くの中学校で頭髪や靴下の長さ、ベルトの色などが細かく指定されている現状を紹介した。

福岡市立中の元校長の木村素也さんと福岡大の佐藤仁教授、市立に通った高校生らによるパネルディスカッションも開かれ、校則の在り方や課題について意見を交わした。

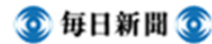
会場には約70人が参加し、オンライン中継では約180人が視聴した。

◇シンポジウムについては後日、詳報します。



校則を全廃した元校長が講演 問題点考えるシンポジウム 福岡

毎日新聞 2021/02/21 07:30



校則の見直しについて活発な議論が交わされたシンポジウム＝福岡市中央区六本松の県弁護士会館で、2021年2月20日、江刺正嘉撮影

校則の問題点を考えてもらおうと「これからの校則」と題したシンポジウム（福岡県弁護士会主催）が20日、福岡市中央区六本松の県弁護士会館で開かれ、約250人が参加した。

県弁護士会は昨年7月、同市に情報公開請求して市立中学校全69校の校則を調査。8割以上の学校で下着の色規制があり、大半の学校で頭髪や眉毛に関する校則があった。違反に対する一部指導には、県弁護士会が「人権侵害」と指摘する対応もあった。

東京の世田谷区立桜丘中の校長時代に、校則を全廃した西郷孝彦さんが基調講演した。西郷さんは「教師を説得するのに苦労したが、段階的に校則をなくし、学校で生徒にバンド演奏や、ダンスなど好きなことをやらせた」と経緯を説明。「自分で考える能力が伸び、学校が好きになり、不登校の子も登校するようになった」と話し、細かすぎる校則が成長の足かせになっていることを指摘した。

パネル討論では、元中学校長で不登校生の保護者会「ぼちぼちの会」会長の木村素也さんが「本来、家庭が担うしつけまで学校がやっているため、校則が細かくなってしまおう」と説明。「地域やPTAと信頼関係を築けば、不必要な校則もなくせる」と提言した。【江刺正嘉】

西日本新聞ニュース 2021/2/21 11:30

合理性ない校則「考える力を奪う」 弁護士会、福岡市立中の調査報告

合理性ない校則「考える力を奪う」 弁護士会、福岡市立中の調査報告



県弁護士会が開いた、校則を考えるシンポジウム

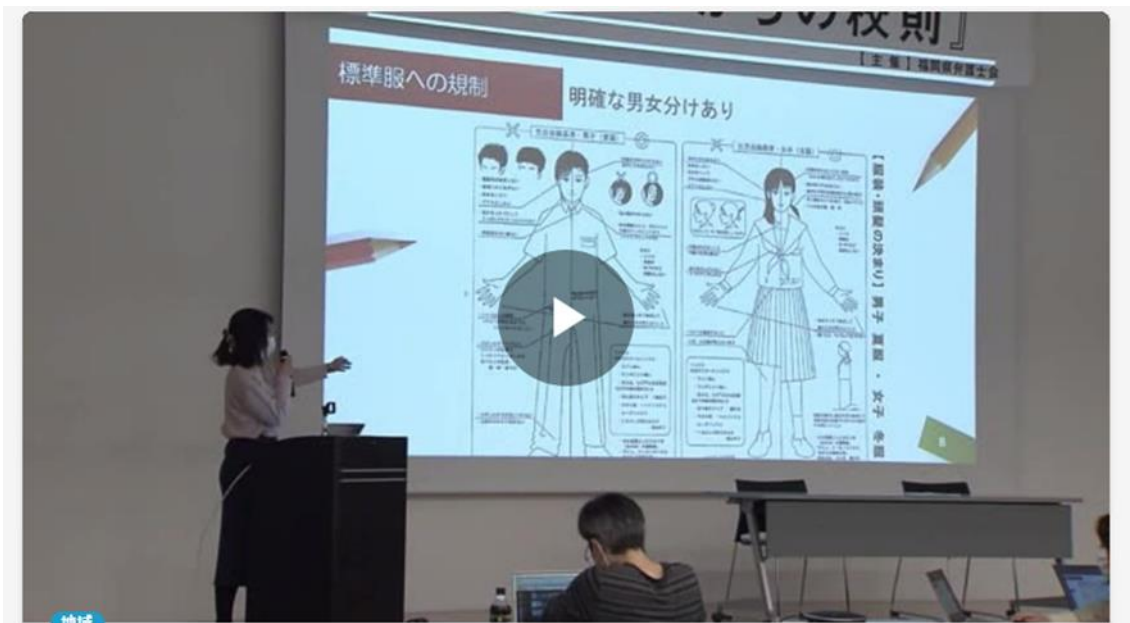
県弁護士会は20日、学校の校則について考えるシンポジウム「これからの校則」を福岡市で開いた。東京都世田谷区の区立桜丘中の元校長で、校則をなくした西郷孝彦さんが講演。「合理的な理由のない校則を押し付けると、子どもの考える力を奪う」と訴えた。

シンポでは弁護士会が、福岡市立の中学全69校について実施した校則の調査結果を報告。多くの中学校で頭髪や靴下の長さ、ベルトの色などが細かく指定されている現状を紹介した。

福岡市立中の元校長の木村素也さんや福岡大の佐藤仁教授、市立中に通った高校生らによるパネルディスカッションも開かれ、校則の在り方や課題について意見を交わした。

会場には約70人が参加し、オンライン中継では約180人が視聴した。

シンポジウムについては後日、詳報します。



中学校の校則を考えるシンポ 福岡県弁護士会が 開催 「子どもにとって、居心地の良い環境を」

福岡市の中学校の校則に関する調査結果を受けて、「これからの校則」について考えようと、シンポジウムが開かれました。

県弁護士会が開いた「これからの校則」をテーマにしたシンポジウムには、会場とオンラインで、あわせて300人あまりが参加しました。

シンポジウムでは、福岡市の全ての中学校で実施した校則の調査結果をもとに、制服や髪型などで、明確な理由なく規制されているものが多いことが報告されました。

また、東京の中学校で校長を務めた西郷孝彦さんは、校則をなくした経緯などを紹介し、「子どもにとって、居心地の良い環境を作ることが大切」と訴えました。

県弁護士会は2月17日、校則の見直しを求める意見書を、文部科学省や県教育委員会などに提出したということです。

福岡県弁護士会

これからの校則

2021年2月20日(土)
13時30分~16時00分

福岡県弁護士会館 2階大ホール

事前申込制
オンラインでも
参加できます

●基調講演 西郷孝彦さん 世田谷区立保丘中学校 副校長
●基調報告 福岡市立中学校全69校の校則分析報告

中学校の校則の在り方を考えるシンポジウム「これからの校則」(県弁護士会主催)が20日午後1時半から、福岡市中央区六本松の県弁護士会館であるII写真スタジオ。東京都の公立中学校在任中に「校則や制服のない学校」を実現した元校長の西郷孝彦さんが基調講演する。参加

中学校の校則考えるシンポ

六本松

県弁護士会が20日 元校長の講演や調査報告

無料。

「靴下は床から15センチ以上の長さ」「髪を結ぶ位置は耳より下」「キーホルダーは一つまで(生徒手帳程度の大きさ)」。校則は生徒の生活指針となる学校内規を指すが、過度に縛り付ける内容は「ブラック校則」と呼ばれ、全国的な見直しの動きが広がっている。

県弁護士会が昨年、福岡市立中の全69校を対象に行った校則調査の報告のほか、不登校生の保護者会長や大学教授が参加するパネルディスカッションがある。

参加希望者は、10日までに県弁護士会のホームページから申し込む。オンラインでの参加も可。県弁護士会II092(741)6416。